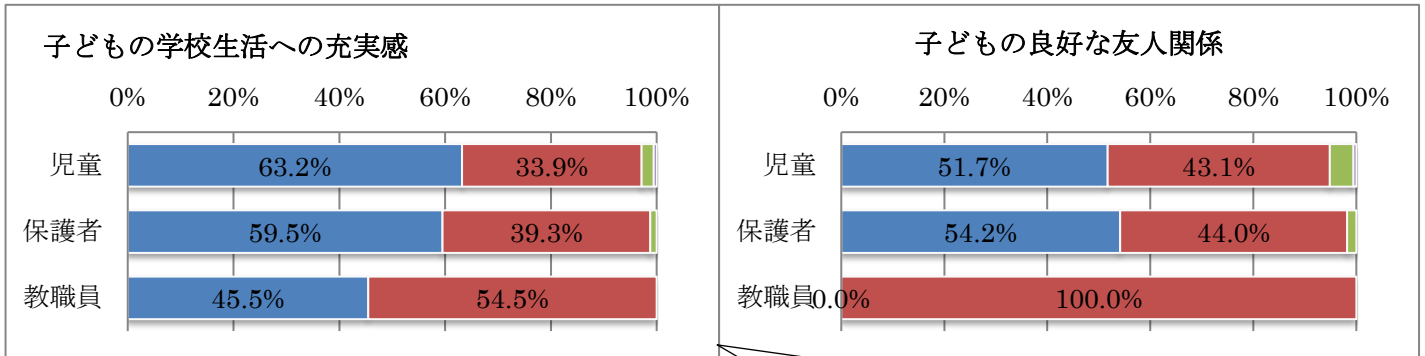


◇ 前期学校評価報告

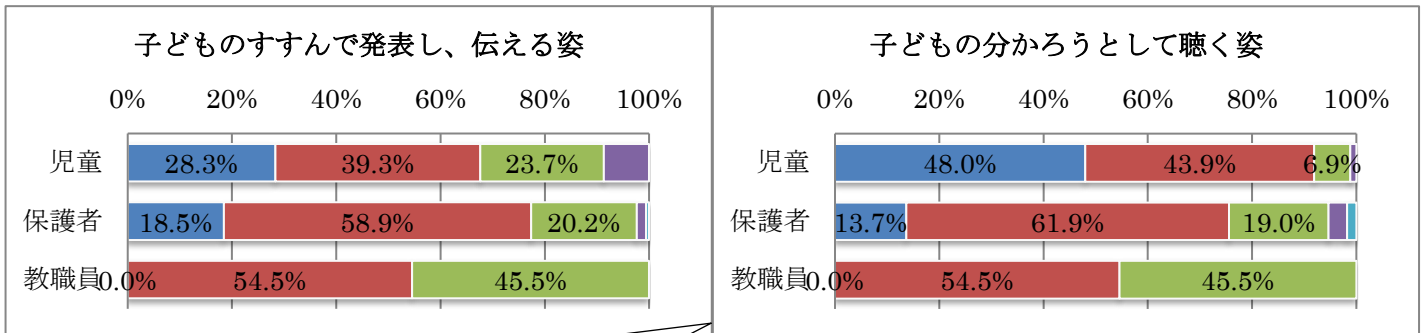
4月から7月までの学校生活に関するアンケート調査（児童・保護者）を受けて、学校職員による自己評価を行いました。これらの結果を報告し、保護者の皆様にご理解いただいた上で、改善点を後期の支援・指導につなげていきたいと思っております。

1 意識調査の結果



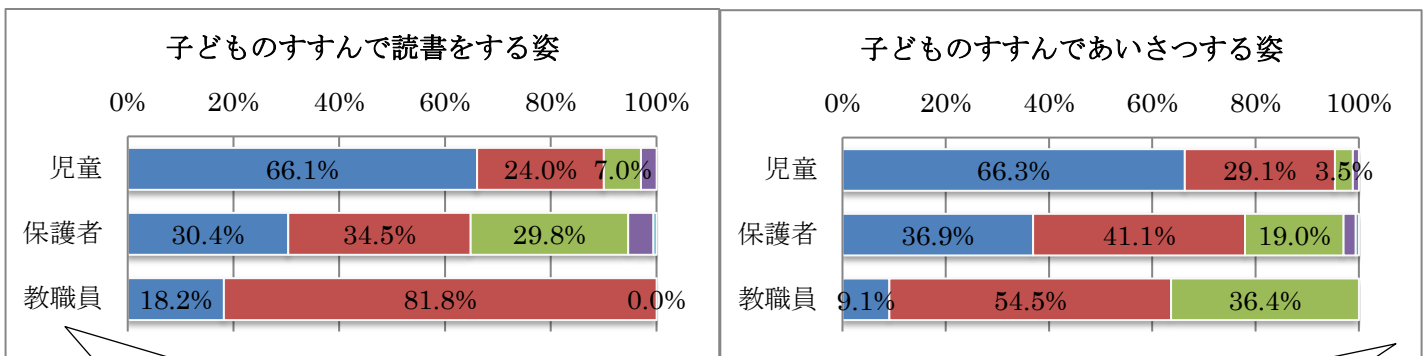
※グラフは、左側から「そう思う」「だいたいそう思う」「あまり思わない」「そう思わない」「無答」

「良好な友人関係」と「学校生活の充実」に相関関係が感じられます。教育相談やいじめアンケートの結果を受けて、子どもたちの困り感や悩みを理解するだけでなく、日々の言動にもアンテナを高くし、特に友だち同士のトラブルに各年齢に応じた対応ができるように心掛けていきます。



※グラフは、左側から「そう思う」「だいたいそう思う」「あまり思わない」「そう思わない」「無答」

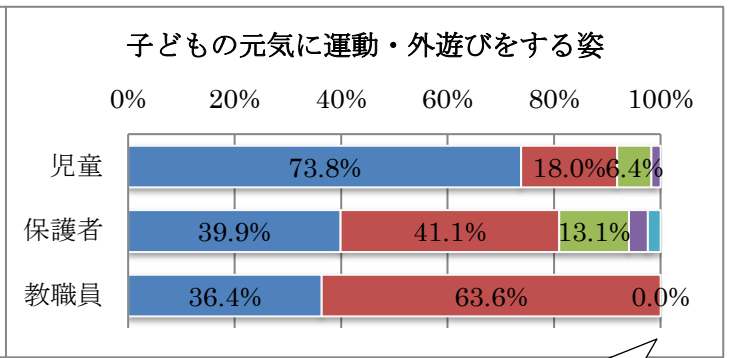
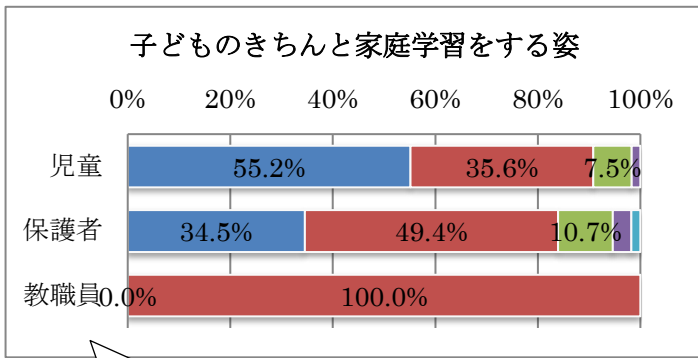
子どもたちは「発表」より「聞く」ことの方ができているという意識をもっているようですが、教職員の評価は、どちらも厳しいものとなっています。子どもの「聞く」と、教職員が子どもに求める「(意味をとらえて考えながら)聴く」は、大きな違いがあります。まずは、授業で「聴く」ことができる子を育てていく指導に重点を置きたいと思っております。



※グラフは、左側から「そう思う」「だいたいそう思う」「あまり思わない」「そう思わない」「無答」

朝の読書タイムにより、子どもたちが本を読む機会を設けていますが、できるだけ文章量の多い本を読ませたいという教職員の思いが評価に表れています。さらに家庭での読書の習慣につながり、児童と保護者の評価も上がっていくことを願っています。

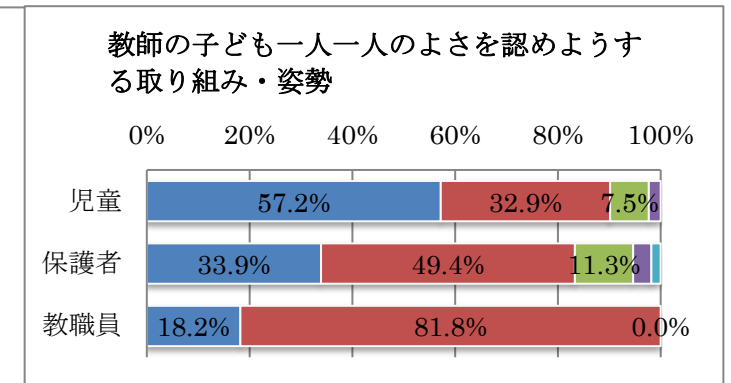
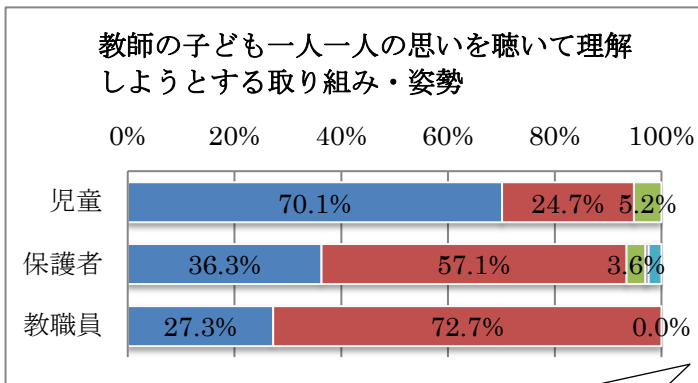
あいさつ運動に取り組んでいる児童のあいさつへの意識は高いです。しかし、それが日常の習慣となっていないことや校内だけにとどまっているため、教職員は厳しい評価をしています。あいさつの意味と必要性を実感させる指導を引き続き心掛けたいと思っております。



※グラフは、左側から「そう思う」「だいたいそう思う」「あまり思わない」「そう思わない」「無答」

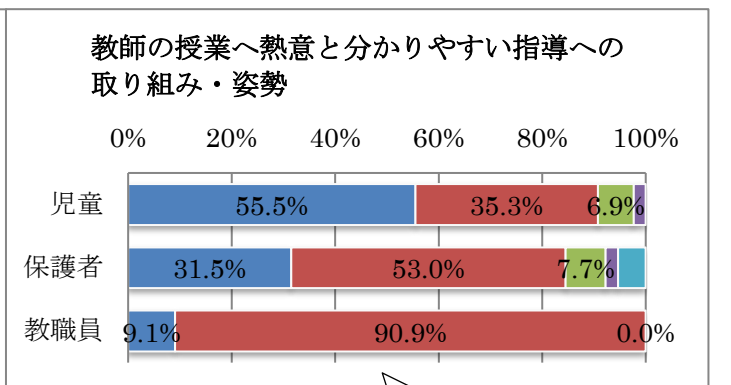
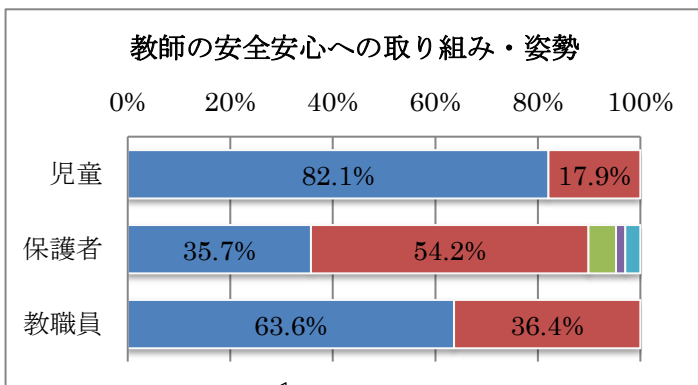
「きちんと」という基準からすると、約半数の児童で十分とは言えない状況です。児童一人一人の学習状況を詳細に把握し、それぞれに応じた対応や指導をしていく必要があります。また、「家庭学習」＝「宿題」ではないことを再確認し、学校・家庭が連携して子どもの力を伸ばしていく必要があることをご理解ください。

朝運動や中休みに運動場で元気よく活動する子どもたちですが、室内での活動を好む児童もいるようです。運動や外遊びを推奨し、外での活動が日常化していくことが望ましいと思います。教職員は、朝運動や休み時間などの学校での様子で判断しています。「だいたいそう思う」の20%の差は、家と学校での遊び方の違いを表しているようです。



※グラフは、左側から「そう思う」「だいたいそう思う」「あまり思わない」「そう思わない」「無答」

教職員がいつでも相談できる構えでいても、なかなか言えない子どもがいます。また、自分のよいところに気付いてもらえない子もいます。教職員は、「理解しよう・よさを認めよう」と常に思っています。これまで以上に子どもの思いを理解したり、よさを認めたりしながら支援していく心構えで子どもたちと接し、児童・保護者の「そう思う・だいたいそう思う」が100%に少しでも近づくことを目指していきたいと思ひます。

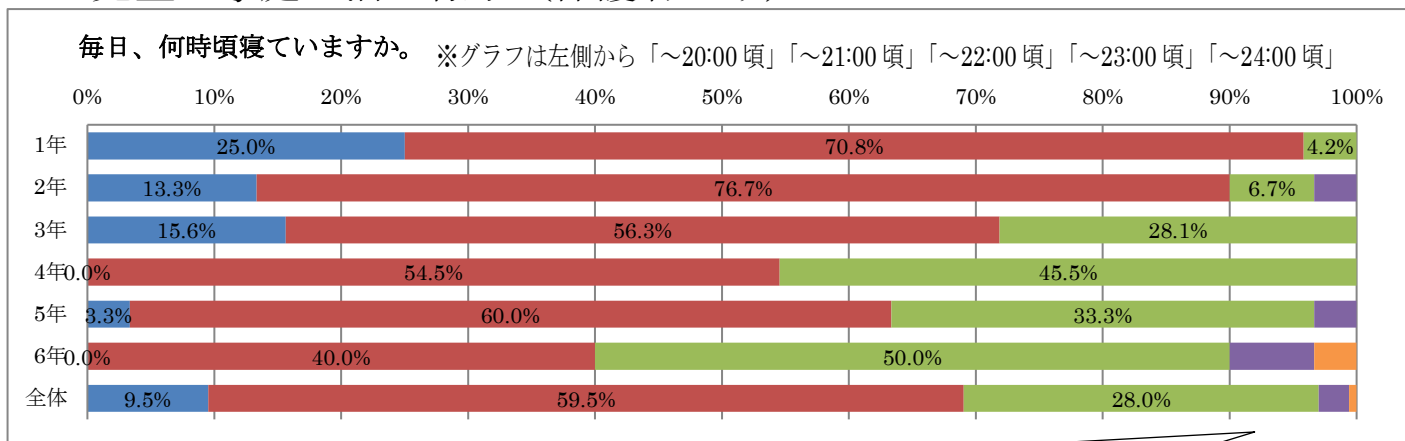


※グラフは、左側から「そう思う」「だいたいそう思う」「あまり思わない」「そう思わない」「無答」

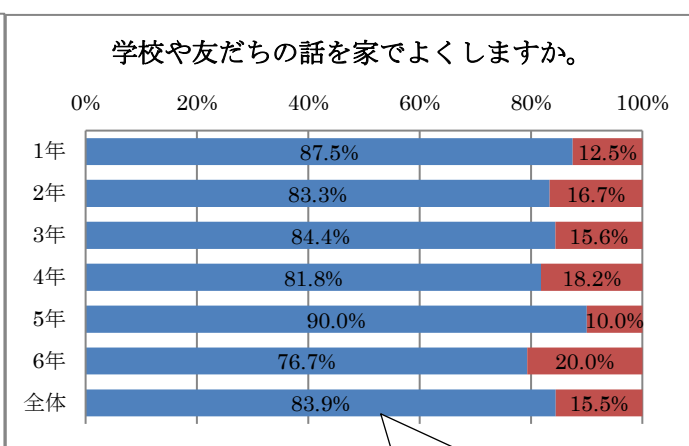
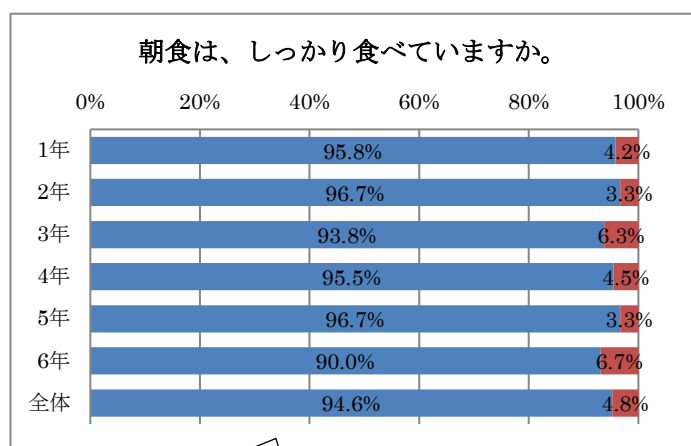
教職員が意識して取り組んでいる安全・安心への姿勢が、保護者の方にも伝わることを願い、今後の指導を継続していきます。

児童・保護者の評価を客観的な数値ととらえ、今後も熱意をもって分かりやすい授業となるように心掛けていきます。特に、子どもたちが「聴いてより深く考える」授業を目指したいと思ひます。

2 児童の家庭生活の様子（保護者のみ）



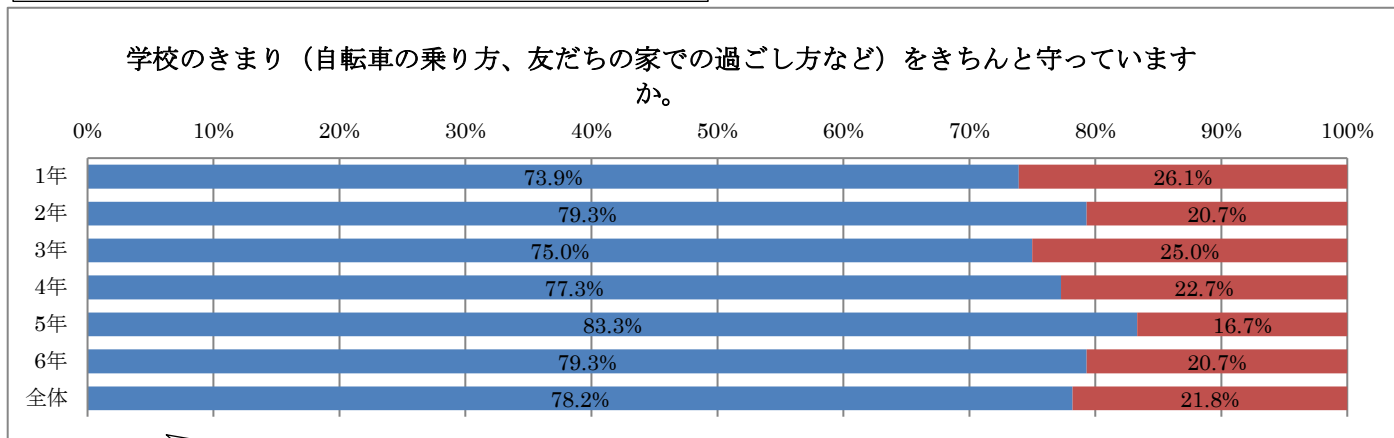
22:00以降まで起きている子が2年生、5年生、6年生にすることが気になります。また、高学年になるにつれて、就寝時刻が遅くなっていく傾向にあります。全ての児童が22:00までには就寝していることが望ましいと思います。就寝時刻が遅くなる原因については、各家庭で話し合ってください、よりよい生活時間の習慣が身に付くことを願っています。



※グラフは、左から「はい」「いいえ」

100%が「そう思う」という回答になっているべき項目です。朝食の大切さを学校だけでなく各家庭でも再度確認していく必要があります。

楽しかったことや嬉しかったことは、自分から話せると思いますが、その反対のことは口が重くなるのが一般的な傾向です。子どもが何も話さないときこそ、声を掛け、安心して話せる雰囲気をつくる必要があります。



※グラフは、左から「はい」「守っていないこともある」

学校のきまりは、自らの安全（命を守る）のため、集団生活の秩序を維持するためのものであることを、夏休み前の集会で指導しました。さらに道徳教育や普段の生活指導を充実させていくことで、子どもたちの規範意識や倫理観を高めていきたいと思ひます。

3 子どもたちがよりよく伸びていくための意見・提案（保護者）より

◇ 学習指導に関すること

- ※ 単学級で競争心が育っていないので、交流会だけでなくリレー会などを吉永二小とやれたらいい。
- ※ 競争心を育てるために、他校との交流を今以上に増やしたらどうか。
- ※ 競争心や切磋琢磨する姿がほしい。表にシールを貼るなど、良い意味での競い合いがほしい。
- ※ 宿題を「できる子はやってきて。」というあいまいな出し方ではなく、明確に出してほしい。子どもが大変でも少し多いくらいで。
- ※ 昨年に比べ十字テストの回数が少なくなったように感じるので、定期的実施していただけたらありがたい。
- ※ 他校との学力差をなくすため、学習面をもう少ししっかり見てほしい。
- ※ 授業で学習していない箇所が計算ドリルの宿題に出ている。子どもは悩み、親としてもどう教えたらよいか困ってしまう。習っていない問題は、習うまで持ち越しにする配慮がほしい。
- ※ 高学年の算数授業は、補助の先生が入るような形でみてほしい。

本校の課題である競争心の育成について、具体的な提案をいただきました。互いに競い合い高め合うこれらの提案については、必要に応じて行っていきたく思います。さらに、数値的な結果の競争よりも、授業の中で互いに考えを聴き合い、考えを練り合うことで、互いに高まっていく（切磋琢磨していく）競争を重視し、これからの知識基盤社会を生きていく子どもたちを育てていきたく思います。

また、宿題やテスト、ドリル等の方法について、いくつかの要望をいただきました。学年の発達段階や子どもたちの実態に応じて、改善できることについては取り組んでいきたく思います。

本校の算数科授業については、全学年で週1時間のチームティーチング（＝TT：担任+個別支援の教師による指導）を行っています。高学年のTT授業を増やすことで低学年のTTができなくなるため、現状維持でいきたく思います。

◇ 生活指導に関すること

- ※ 子どもの発達段階に合った教師の接し方が必要。特に、子どもに注意するときの教師の言葉は選んだ方がよいと思う。厳しすぎることもあったので。
- ※ 子どもたちにもっと気配りをしてほしい。先生達の意見を統一してほしい。（担任が代わるたびに言われることが違う。）
- ※ 人に言えない悩みを抱えている子もいると思うので、できるだけ教師との交換日記をしていただきたい。
- ※ 予定帳（表）のコメントへの返事がほしい。日々の出来事を知らせてほしい。
- ※ 強要するのではなく、自発的なあいさつができるように指導してほしい。（相手を察し、むやみやたらにしないことも）

厳しさの中にも温かさがある指導を心掛けてきましたが、時には子どもの心を深く傷つけてしまったことは反省しなければいけないと思います。ただし自他の命に関わるような行い（危険な行為、いじめ等）については、厳格な指導が必要であることをご理解ください。

悩みを抱えている子については、教育相談日に直接担任へ相談できることが望ましいと思います。それができない場合は、養護教諭やスクールカウンセラーに相談することも紹介します。小学生の場合、教師との交換日記は悩み相談というより、日々の出来事の記録という性格が強いため、導入については今後も検討を重ねていきます。

保護者のコメントへの返事については、時間を見つけてできるだけ書くように努力していきます。ただし、電話で直接伝えた方が、詳細を説明できる場合もあるので、ご了承ください。

あいさつについては、時と場に応じたあいさつやそれに伴う作法ができるように、全職員で機を逃さない指導を心掛けていきます。

◇ その他

- ※ 下校時の見守りボランティアがいると安心。
- ※ 帰宅後は、親の目で気をつけてみている。
- ※ 地域に遊ぶ場所が少ないので、学校の運動場へ遊びに行くのはよいことだと思う。外で安心して遊べるように、地区でも話し合えるとよい。

下校時のボランティアや、地域における子どもの安心・安全への取り組みについては、今後、学校だけでなくPTAや各地区の担当を交えての話し合いが必要です。その機会において話題として取り上げたいと思います。